

令和5年度「論理国語」シラバス

科目名	必修・選択	単位数	類型
論理国語	選択	2	共通
教科書 副教材等	論理国語（数研出版）		

1 学習目標

一年次に学習した「現代の国語」における近・現代の文章に学習内容を発展させ、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。それとともに、近・現代の文学や価値観に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や文学作品や登場人物に対する「同化」や「異化（客観的な分析）」を通して、深く共感したり、豊かに想像し自分の思いや考えを広げ、深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習概要

文化としての日本語、また、日本語を実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な生活、さらに、近・現代に発表された文学作品に表現され、受容されてきた日本語の芸術や芸能などを学んでいきます。近・現代の小説・詩・短歌俳句等の文学や、古典の作品にも触れながら、総合的に国語を学ぶことになります。

3 学習方法

(1) 授業への取組

授業は、教材について読み考え記述し、そして発表する場です。教師が板書することをノートに書き写すだけでは意味がありません。生徒の皆さん一人一人が積極的に授業に参加することが期待されています。

(2) 家庭学習

授業で扱う教材については事前に通読し、読めない漢字や意味の分からない語句については辞書で調べておきましょう。事前に通読・意味調べ等をするのとならないのでは、理解に大きな差が生まれます。また、語彙力と読解力を強化するためには、日常的に活字に触れることが大切です。画像や動画といった視覚刺激に慣れすぎると、思考や発想が鈍くなります。ぜひ日々の読書を日課としてください。

4 評価について

(1) 評価方法

「知識・技能 (①)」、「思考力・判断力・表現力 (②)」、「学びに向かう人間性 (③)」の3観点で評価を行います。

具体的に評価方法以下の通りです。

- ・定期考査（中間・期末考査、学力テスト）……………①、②
- ・小テスト……………①、③
- ・授業に対する姿勢や態度……………②、③
- ・発問に対する発表内容……………②、③
- ・課題や提出物等の提出状況・内容・発表方法……………①、②

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

(2) 評価規準

	知識・技能 (①)	思考力・判断力・表現力 (②)	学びに向かう人間性 (③)
評価基準	生涯にわたる現実社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使用しようとしている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者と伝え合う力を高め、思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

5 学習計画

学期	単元名	学習のねらい（内容のまとめりごと）	考査等
一学期	【逆説】 ・手の変幻（清岡卓行） 【具体と抽象詩】 ・「内的成長」社会へ（上田紀行） 【言葉と想像】 ・添削の思想（外山滋比古） 【近代と現代の視点】 ・未来世代への責任（岩井克人） ・科学・技術の歴史の中での社会（村上陽一郎）	<ul style="list-style-type: none"> 意味段落のまとめりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。 文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 逆説的な表現の内容を理解する。 筆者が考える「問題の本質」の内容を論拠とともに読み取る。 「知識循環型社会」の実現のために必要なプロセスと実現に向けての課題について説明する。 	学力テスト① 中間考査 期末考査
二学期	【情報と社会】 ・白紙（森田真生） ・擬似群衆の時代（港 千尋） 【言葉と思考】 ・日本語は非論理的か（野矢茂樹） 【文章の背景】 ・「安楽」への全体主義（藤田省三） 【文化の認識】 ・「いき」の美学（尼ヶ崎彬） 【社会の枠組み】 ・「である」ことと「する」こと（丸山真男） 【情報と知性】 ・人工知能はなぜ椅子に座れないのか（松田雄馬） 【環境と人間】 ・意志と選択（國分功一郎） ・環境と心の問題（河野哲也）	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の逆説的言説を理解したうえで、異なる事例を考え、論理的に説明する。 言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点が見える具体的な事例を日常生活の中から考える。 言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 外国の言葉や表現を選び、それが表す概念とともに紹介する。 対談の文章を読み、それぞれの考えの共通点を読み取る。 筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解する。 日本人の美意識について考える。 各段落の要旨をまとめ、「民主主義」についての筆者の考えをとらえる。 文章内容を新聞の投稿文の内容と関連づけて考察する。 労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。 「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。 環境問題について筆者の意見の論理をとらえる。 「未来世代への責任」という題で自分の考えを書く。 筆者の主張の根拠を、文章の構成や展開を踏まえて読み取り、「エコロジー」について自分の考えを深める。 	学力テスト② 中間考査 期末考査
三学期	【思索の深化】 ・顔の所有（鷺田清一） ・無常ということ（小林秀雄） 【物語と表現】 ・本歌取り（永田和宏）	<ul style="list-style-type: none"> 「美」や「無常」について筆者の主張はどのようなことかを具体例を手がかりにとらえ、考察する。 本歌取りの表現手法の内容について理解を深め、本歌取りについての筆者の考えを読み取る。 先人の作品を現代の読者に喚起する表現の例を具体的に考えて文章にまとめ、発表する。 	学力テスト③ 学年末考査